教　育　評　価　報　告　書

（平成１３年度着手分）

新 潟 大 学 医 学 部 医 学 科

平成１４年４月

新潟大学評価委員会

Ⅰ　対象組織の現況

学部名　　医学部

学科名　　医学科

学生総数　　定員　595 人
　　現員　612 人

教員数	医学科	附属腎研究施設	附属動物実験施設
教　授	33	3	
助教授	30	3	1
講　師	18		
助　手	55	2	1

教員数	医学部附属病院	脳研究所
教　授	3	8
助教授	8	8
講　師	28	
助　手	81	14

教員総数

教　授	47
助教授	50
講　師	46
助　手	153
合　計	296

（平成 12 年 5 月 1 日現在）

（医学部医学科）

Ⅱ　教育目的及び目標

（1）　医学部の教育・研究の理念，目標及びその方策

①　学部の教育・研究の理念

医学部の教育・研究の理念は，学術の研究と真理の探究，及び高度の教養を備えた良識ある社会人を育成するとの本学の理念を基本認識として，我が国及び世界の医学・医療に貢献できる優れた人材，すなわち，人間尊重の全人的医療に従事する豊かな教養と優れた専門的能力を有する医師，医療人を育成するとともに，多様な社会的要請に応えることのできるプライマリケア，救急医学，ターミナルケア，高度先進医療，予防医学及び医療行政を担う医師・医学者・医療職者を育成する。更には，国際的な生命科学の研究推進に貢献できる研究者を養成することである。

②　学部の教育・研究の目標

～医学研究と全人的医療を通じて国民に良質の医療の提供～

学部の教育・研究の理念に基づき，教育・研究基盤を整備し，疾病の原因，病態等の研究，診断法及び治療法等の開発を一層推進するとともに，医学・医療について高度な専門知識と能力を持ち，全人的医療を行い得る人材を育成し，国民に良質の医療を提供することを目的とする。

③　学部の施策

上記の教育・研究の目的を達成するため，医学部は，総合大学の利点を生かし，また，地域の中枢医療機関としての立場，及び環日本海地域における医学・医療に関する拠点大学であることに鑑み，国際的に通用するライフサイエンスについての統合型大学院を設置し，これを軸として大学院の高度化を図るとともに，入学試験やカリキュラムの改革等学部教育についても全力を尽くす体制を整えることを中長期的な施策とする。

（2）　医学部医学科の教育・研究の理念，目標及びその施策

①　医学科の教育・研究の理念

医学科の教育・研究の理念は医学を通して人類の幸福に貢献することであり，そのために高度な学術研究と真理の探究に努めるとともに，医学・医療の教育を通して人間の生命への畏敬の念と他者への配慮，更に自己規制ができ，豊富な知識と深い洞察力を持ち，国際社会にも受け入れられる豊かな人間性を持った医師，研究者及び行政

官を育成することである。

② 医学科の教育・研究の目標

～グローバルに全人的医療に貢献し，生涯研究心を持ちつづける人材の養成～

医学科，は以下のような人材を養成することを教育・研究の目標とする。

1)全人的医療に貢献できる人材

2)高度の専門性を持つ医療チームの一員として貢献できる人材

3)広い視野と高い研究心を有する研究者となり得る人材

4)保健，医療，福祉，厚生行政に携わる人材で地域，社会はもちろんのこと，国際的に十分貢献できる人材

5)探究心，研究心，自ら学ぶ態度を生涯持ちつづける人材

③ 医学科の施策

上記の目標を達成するため，斬新な入学制度並びにカリキュラムの改革を進める必要がある。

具体的には，第３年次編入学制度の採用，高校教育と大学教育の移行の円滑化，教養教育の重視，教養教育と専門教育の有機的連携の確保，専門教育における基礎・基本の重視，国際舞台で活躍できる能力の育成などに重点をおき，クリニカル・クラークシップの充実，チュートリアル制度の導入，客観的臨床能力試験（OSCE）の導入，基礎研究講座への配属制度の充実，及び国際交流の充実と新たな展開，などを図る。

Ⅲ　項目別評価結果

１．アドミッション・ポリシー（学生の受入方針）

ここでは、対象組織における「アドミッション・ポリシー（学生受入方針）」の策定及び周知・公表状況やその方針に沿った「学生受入の方策」の実施状況を評価し、特記すべき点を「特色ある取組、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標の達成への程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

◇特色ある取組・優れた点

新潟大学医学部医学科は、学力・人格に優れているだけでなく、医学に対する進取の気質に富む学生を求め、最新かつ高度な医学の知識・教養を有する医師の養成とともに，高度な知識と技術・国際性を身につけた医学研究者の養成を目指している。

この目標を実現するための人材の確保、すなわち学生の受入において、特別選抜の実施や選抜方法の改善、3 年次編入の検討などとともに、「新潟大学医学部案内」や広報ビデオ「新潟の医学」の作成、高校生等を対象にしたオープンキャンパスを含む学部説明会・セミナーの開催など、募集・広報もかなりの努力を払っていることは評価できる。また、これにより過去 9 年間の一般選抜前期の志願者倍率はほぼ 5～6 倍で推移し、後期は募集人員が少ないこともあって高倍率となっている。また、前期日程と後期日程の合格者の学力水準はほぼ同等であり、適正な学力レベルの志願者を確保していると考えられる。

◇改善を要する点・問題点等

入試の改革はさまざまに行っているが、その効果の評価については平成 2 年の推薦入学の追跡調査があるだけであり、システムとして評価を考える必要があるように思われる。

◇貢献の状況（水準：７）

目的・目標にあった優秀な学生を入学させるため、さまざまな努力がなされており、ある程度の成果があがっているが、学部の特質や特徴などをアピールし、さらに本学部の目指す医療人の養成のための学生を集めるための努力に務めて欲しい。

２．教育内容面での取組

ここでは、対象組織における「教育課程及び授業の構成」が教育目的及び目標に照らして、十分実現できる内容であるかを評価し、特記すべき点を「特色ある取組、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

◇特色ある取組・優れた点

21 世紀に向けた医師、医学研究者、医学教育者の育成を展望した新しいカリキュラム（「カリキュラム 2000」）を編成し平成 12 年度入学者から実施している。この「カリキュラム 2000」の編成は，平成 10 年末から「医学部カリキュラム検討委員会」の下部組織として「医学部カリキュラム改善ワーキング・グループ」がカリキュラムの骨子をつくり、これに基づいて平成 11 年 10 月に「医学部カリキュラム検討ワークショップ」が開催され、教官（教授、助教授、助手）約 60 名と学生数名を交えてカリキュラムの具体的な内容（教育目標と授業内容）作りが行われた。このカリキュラム作りは、かなりの労力を要し、これを組織だって実施したことは大いに評価できる。

このカリキュラムでは、モチベーションを高めるための動機付け教育の充実（早期医学体験実習の充実、医学概論の新設など）、問題解決型学習法の導入（医学概論における発想法、小グループ学習法、ディベートの導入など）、医学研究実習（基礎配属）の見直しと充実、クリニカル・クラークシップなど、意欲的な試みが取り入れられている。

実践的模擬実習（臨床基礎訓練）、客観的臨床能力試験（OSCE）、総合講義、小グループ学習と発表会など、教育の実効をあげる努力がなされている。

◇改善を要する点・問題点等

臨床系の教育は新しい試みが多く取り入れられているが、基礎医学系では基礎学力の不足を補う「細胞生物学」の開始など努力はされているものの、従来的な教育が継続している様子であり、今後改善の努力が必要と思われる。

◇貢献の状況（水準：８）

医学部カリキュラム検討委員会、医学部カリキュラム改善ワーキンググループにより、積極的にカリキュラム改革が行なわれ、大いに努力し成果が上がっていると思われる。

（医学部医学科）

３． 教育方法及び成績評価での取組

ここでは、対象組織における「教育方法及び成績評価法」が教育目的及び目標に照らして、適切であり、教育課程及び個々の授業の特性に合致したものであるかを評価し、特記すべき点を「特色ある取組、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

◇特色ある取組・優れた点

入学初年度から実施している早期医学体験実習は、学生にモチベーションを持たせる上で有効であり、評価できる。また、臨床実習に入る第４年次で基礎訓練期間を設定し、患者サービス、医療面接、身体診察法などを教育し、客観的臨床能力試験（OSCE）を行い評価しているのは、意欲的な取組である。さらに、第６年次の臨床実習は、医学部附属病院だけではなく、市中病院での臨床実習を経験させ、特殊なあるいは稀な疾患だけではなく、日常遭遇しやすい疾患をも経験させている。これらの実習は、高い倫理観と豊かな人間性並びに優れた診療能力を有する良き臨床医を育成する上で、有効であり評価できる。

卒業年次の学生全員に対して,「医学教育に関するアンケート」が実施され、その結果も生かされており、努力がなされている。

教授方法及び教授能力向上のための工夫・改善への取組として、平成 9 年から「新潟大学医学教育ワークショップ」が開催されており、また平成 11 年 2 月には新潟大学医学教育シンポジウムも開催され、教員の意識改革、カリキュラムなどに効果をあげている。

◇改善を要する点・問題点等

卒業年次の学生全員による「医学教育に関するアンケート」が有効に活用されているが、他の年次の学生による授業評価も検討されるべきだろう。

臨床系の教員は学生教育とともに診療も行い、今後チュートリアル形式の授業の増加により、さらに負担が増加してゆくので、教員の負担についての検討が必要である。

◇貢献の状況（水準：７）

さまざまな試みがなされており、大いに努力しているが、その成果については学年進行中のこともあり、まだ評価されていないものが多い。今後成果を検討しさらなる改善の努力をして欲しい。

４． 教育の達成状況

ここでは、対象組織における「学生が身につけた学力や育成された資質・能力の状況や「卒業後の進路の状況」などから判断して、教育目的及び目標において意図する教育の成果がどの程度達成されたかについて評価し、特記すべき点を「特色ある取組、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標の達成の程度を「達成の状況（水準)」として示している。

◇特色ある取組・優れた点

新卒者の国家試験合格状況は，平成 11 年度を除いて 90%を超えている。この値は全国平均及び国立大学の平均を超えており、教育目標が優れた診療能力を有する良き臨床医を育成することであるので、十分評価できる。

◇改善を要する点・問題点等

臨床教育について、さまざまな試みがなされているが、それがどのような効果をあげているかについては、ほとんど検証されていない。学生の成績や進級のデータベースも、それをどのように生かして行くかが検討されていない。

卒業生の大学院への進学状況では、基礎系を専攻する学生が極端に少ない。学生の大学院、特に基礎系への進学意欲の刺激は必要で、医学研究実習（基礎配属）の期間を２カ月程度**に**延長するなど、改善の努力がされているが、大学院と連携して、今後更なる努力が必要と思われる。

◇達成の状況（水準：７）

国家試験の合格率が高水準にあり、ほぼ１００％の卒業生が医師になるか大学院生に進学している状況から、かなり高い評価ができるが、データベースや表彰制度が整備されていないことなどもあり、さらなる努力を要望したい。

（医学部医学科）

５．学生に対する支援

ここでは、対象組織における「学習や生活に関する環境」や「相談体制」の整備状況や「学生に対する支援」が適切に行われているかを評価し、特記すべき点を「特色ある取組、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

◇特色ある取組・優れた点

１年次から６年次までの学生を、１グループ１２～１３名に分け、医学部、附属病院、腎研究施設、脳研究所すべての教授が分担して、入学から卒業まで同一グループの学生と交流できるようにし、学生の事故、留年、休学などさまざまな問題に対応する体制があるのは評価できる。

卒業後の進路を考えるための臨床系の入局ガイダンスが、毎年９月以降に各教室単位で個別に行われており、これらは総計 30 回以上におよんでよく努力されている。また、学生も積極的に活用している状況にあり評価できる。

◇改善を要する点・問題点

就職（入局）ガイダンスを開催し、学生も積極的に活用している状況にあるものの、本学附属病院に就職（入局）する者の数は、年々減少する傾向にあり、研修カリキュラムの充実した市中病院や他大学を選ぶ者が増えつつあるようだ。新潟地域における医師需要に応えるためには、就職先として魅力ある臨床研修制度を充実させて行かなければならないと思われるが、これは附属病院と連携しての努力となる。

◇貢献の状況（水準：７）

学生に対する支援の中で、学生生活相談に関する組織・実施状況は大いに努力しているが、その成果について評価し、改善してゆくことが必要と思われる。また、本学附属病院への就職（入局）者の増加対策など、組織としての対応を含め、大いに努力して欲しい。

６．教育の質の向上及び改善のためのシステム

ここでは、附属病院として「教育の質の向上及び改善のためのシステム」が整備され機能しているかについて評価し、特記すべき点を「特色ある取組、優れた点」、「改善を要する点、問題点」として示し、システムの機能の程度を「機能の状況（水準）」として示している。

◇特色ある取組・優れた点

平成9年度から年１回開催されている「新潟大学医学教育ワークショップ」は、医学部医学科，脳研究所，医学部附属病院の教員、さらに学外の臨床実習病院の臨床実習指導医も参加して、２日間の合宿研修である。このワークショップを通じて、教員の意識改革が行われ、「知識切り売り型」と言われている従来の医学教育に対する問題意識、課題解決型の明確な目的意識を持つ人材を養成するための医学教育のあり方、新たな課題に対応できる教育方法及び評価方法などについて、日本医学教育学会から招いた医学教育の専門家をタスクフォースとして研修している。このようなワークショップを継続して開催し、教員の意識改革を行い、カリキュラムや指導方法に反映させているシステムは、大いに評価できる。

◇改善を要する点・問題点

臨床の実地教育において、学部学生ではシステム的にさまざまな試みがなされ、一応の効果がみられるが、それがどのような効果をあげているかについての検証は、システムとしてなされていない。

小グループ学習など，学生自身が積極的に学ぼうという意欲を持たせることを目指しているので、教員の負担が増える。この教員の負担を正当に評価する必要があるが、その早急な検討が求められる。

◇機能の状況（水準：６）

「新潟大学医学教育ワークショップ」や「カリキュラム２０００」を計画実施しており、教育の質の向上及び改善のためのシステムは機能している。今後、それら実施したものの効果について評価することが、今後の改善につながるのでさらに努力して欲しい。

（医学部医学科）

Ⅳ　総合的評価結果

新潟大学医学部は教育・研究の目標として、医学研究と全人的医療を通じて国民に良質の医療の提供を、医学科ではグローバルに全人的医療に貢献し、生涯研究心を持ち続ける人材の育成を掲げている。この教育目標を達成すべく、これまで入学制度ならびに教育カリキュラムの改革・改善を進めてきた。

学生の受入では、特別選抜の実施や選抜方法の改善、3 年次編入の検討のほか、募集・広報もかなりの努力を払い､適正な学力レベルの志願者を確保していることは評価できる。

教育カリキュラムの改革・改善では､「医学教育ワークショップ」を開催して教員の意識改革を行い､「知識切り売り型」の従来の医学教育に対する問題意識、課題解決型の目的意識を持つ人材養成のための医学教育のあり方、新たな課題に対応できる教育方法及び評価方法などを研修している。このようなワークショップを継続して開催し、教員の意識改革を行い、カリキュラムや指導方法に反映させているシステムは、大いに評価できる。

カリキュラムの編成では､「医学部カリキュラム改善ワーキング・グループ」がカリキュラムの骨子を作り、これに基づいて検討ワークショップが開催され，教官約 60 名と学生数名を交えてカリキュラムの具体的な内容作りが行われた。このカリキュラム作りは、かなりの労力を要し、これを組織だって実施したことは大いに評価できる。

カリキュラムでは、早期医学体験実習、臨床実習に入る前の医療面接などの基礎訓練、クリニカル・クラークシップ、グループ学習、ロールプレイでの擬似体験、チュートリアル制度など、新しい試みが意欲的になされている。これらは、高い倫理観と豊かな人間性並びに優れた診療能力を有する良き臨床医を育成する上で、有効と考えられ評価できる。

学生に対する支援では、学生をグループ分けし、医学部や附属病院などの教授が分担して、入学から卒業まで同一グループの学生と交流できるようにし、学生の事故、留年､休学などさまざまな問題に対応する体制があるのは評価できる。

入試やカリキュラムにおいて、さまざまな試みがなされているが、それがどのような効果をあげているかについては、年度進行中のこともあると思うが、組織としてほとんど検証されていないように思われる。また、カリキュラム改変に伴っての教員の負担の増加など、解決しなければならない問題も少なくない。教育目的及び目標の実現のために、改善のためのシステムを機能させて、一層の努力を払っていただきたい。

Ⅴ　評価結果の概要

１．項目別評価の概要

１）アドミッション・ポリシー（学生の受入方針）

学生の受入において、特別選抜の実施や選抜方法の改善、3 年次編入の検討などとともに、「新潟大学医学部案内」や広報ビデオ「新潟の医学」など、募集・広報もかなりの努力を払っていることは評価できる。

２）教育内容面での取組

平成 12 年度入学者から実施している「カリキュラム 2000」では、モチベーションを高めるための動機付け教育の充実、問題解決型学習法の導入、クリニカル・クラークシップなど、意欲的な試みが取り入れられている。

３）　教育方法及び成績評価での取組

実践的模擬実習（臨床基礎訓練）、客観的臨床能力試験（OSCE）など、教育の実効をあげる努力がなされている。

４）教育の達成状況

臨床教育について、さまざまな試みがなされているが、それがどのような効果をあげているかについて評価し、改善してゆくことが必要と思われる。

５）学生に対する支援

学生に対する支援の中で、学生生活相談に関する組織・実施状況は大いに努力していることを示しているが、その成果について評価し、改善してゆくことが必要と思われる。

６）教育の質の向上及び改善のためのシステム

「新潟大学医学教育ワークショップ」や「カリキュラム２０００」を計画実施しており教育の質の向上及び改善のためのシステムは機能している。

２．総合的評価の概要

新潟大学医学部は、これまで入学制度ならびに教育カリキュラムの改革・改善を進めてきた。特に、平成９年から実施してきた「医学教育ワークショップ」では教員の意識改革を行い、カリキュラムや指導方法に反映させているシステムは、大いに評価できる。

カリキュラムでは、早期医学体験実習、臨床実習に入る前の基礎訓練など、新しい試みが意欲的になされている。　今後それらを評価して教育目的及び目標の実現のために、改善のためのシステムを機能させて、一層の努力を払っていただきたい。